

## 第8回 三重河川流域委員会 議事要旨

日時：平成25年3月29日（金）14:00～16:00

場所：プラザ洞津 高砂の間

### 1. 開会

### 2. 挨拶

### 3. 議題

#### (1) 第7回三重河川流域委員会の議事要旨の確認

第7回三重河川流域委員会の議事要旨について報告し、確認された。

#### (2) 雲出川の治水対策について

雲出川の治水対策について説明を行い、意見を頂いた。主な意見及び質疑応答については、以下のとおり。

- ・ 超過洪水時の影響（1/60 超過確率流量）の中で破堤リスクが悪化するケースがあるが、  
 どのような理由なのか。（資料3 P8）  
 →整備計画目標流量に対応した遊水機能や堤防整備を行うため、計画規模以上の洪水の場合は、遊水機能と河道流量が変化し、河道負担流量が増加するケースがあるためである。
- ・ 可能であればできるだけ樹木を残して欲しいので、計画での樹林伐採は最低限レベルの伐採なのか。また、一斉に全てのエリアが伐採されるのか。（資料3 P10～15）  
 →河川の流下能力を上げるために、樹木伐採、河道掘削、高水敷の幅を狭めるなどの複数の対策案から検討しており、今回提示した樹木伐採範囲は河川環境や利用、コストなどを勘案し最低限実施する必要がある範囲である。  
 伐採は一斉ではなく、整備目標期間内で順次樹木伐採していくことになる。
- ・ 樹木伐採の施工にあたっては、環境への影響を軽減する施工方法など工夫できると考えられる。（資料3 P10～15）  
 →魚付林の機能を有する樹林帯など保全する必要がある部分への配慮は考えている。  
 今後の樹木伐採の施工にあたっては、専門家のご意見を聞きながら影響を軽減する工夫を考えていく。
- ・ 環境アセスとかの評価で樹木を切ることが必要かどうかの検討がしているのではないかと。レッドデータブック、貴重種に載っていないから大丈夫というのではなく、生物の多様性という観点で考えるべきではないか。（資料3 P10～15）

→整備計画を進めるにあたり水辺の国勢調査で環境への影響は確認しており、現時点では整備計画目標における河道整備流量が 4,400m<sup>3</sup>/s 迄であれば影響を受ける動植物はいないと判断している。

今後の施工にあたっては専門家のご意見を聞きながら考えていく。

- ・治水メニューの C, D 案は左岸計画遊水地計画であるが洪水調節量は異なるのか。

(資料 3 P3)

→C、D 案は左岸側の越流堤幅がそれぞれ異なるため洪水調節量も異なる。C 案は右岸側で概ね 200m<sup>3</sup>/s、左岸側は概ね 500m<sup>3</sup>/s で合計 700m<sup>3</sup>/s の洪水調節、D 案は左岸側だけで 700m<sup>3</sup>/s の洪水調節を行う計画である。

- ・越水被害リスク額と破堤被害リスク額を合計したのはなぜか、あえて足す必要がなくそれぞれの評価でよいのではないか。(資料 3 P7)

→雲出川の現状を踏また洪水時の被害要因を踏まえ、「越水」と「破堤」で被害リスクを定量的に評価し、合計値を一つの評価方法として提案したものである。

ご指摘いただいたとおり、それぞれを個別で評価を行う。

- ・樹木伐採は単純に残る面積の評価だけでなく、樹木を構成している種は質的に異なり、多様性を念頭に置いて評価しなければならない。樹木伐採の際に伐採・除根等の組合せにより工夫の仕方はあると思う。昭和 36 年から平成 20 年で樹木は大幅に増えているので伐採の方法の工夫もされる必要がある。(資料 3 P16)

- ・河川樹木は変化するので河道整備はその後どうなるか念頭において整備を進めて欲しい。資料 3 の P13 の外来種駆除の監視をしながら手入れをするのと同じように、樹木の管理を行っていくことを考えて欲しい。

→整備計画期間後に、昭和 36 年から平成 20 年のように樹林が増加増してはいけなく考えており、整備した河道に費用をかけない維持管理に取り組んでいく。

今後の樹林伐採の施工にあたっては専門家のご意見を聞きながら考えていく。

- ・雲出川と雲出古川に挟まれている津市香良洲地区の安全度はどうなるのか。

→津市香良洲地区の周辺は現在も河口の方から順次整備を進めている。

現況河道・超過洪水 (1/60、1/100 超過確率流量) いずれの場合も、検討では計画高水位を上回る水位にはならない結果である。

- ・埋蔵文化財については、治水対策メニューによって影響がある、無いという評価までは必要はないと思う。埋蔵文化財包蔵地として示された範囲しか調査しなくてもいい訳ではなく、工事の際には事前調査を行うなど十分に配慮していただくことが重要である。

(資料 3 P18)

→今回は様々な評価軸で評価をしており、評価の一つとして提示させていただいた。

埋蔵文化財については工事に際して充分現場で対応していく。

- ・治水対策メニュー案のうち、E, F 案については今回で検討案から外してよい。  
 今後は、A, B, C, D 案の組み合わせやライフサイクルコストを考慮した上でさらに検討を進めること。  
 →本日ご指摘いただいた意見を踏まえ、検討を進めて次回委員会で提案したい。

(3) 雲出川水系河川整備計画（骨子（案））について

- ・維持管理の PDCA サイクルにおける、点線の A(河道計画への反映)は大変重要なことで、この考え方は大変評価できる。ライフサイクルコストを下げるために、NPO や地域住民の適度な維持管理に参画してもらうようなより良い計画にして欲しい。

(資料 4 P15)

(4) 今後の予定

- ・今後の開催予定について説明を行い、了承された。

4. 閉会